

令和7年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)	部局名	ふくし部
款	項	目			課 名	高齢者支援課
3	1	3	老人福祉費	208		

I：事業概要

施策事業名	高齢者福祉総務								
事業目的	他の事業に属さない高齢者福祉事業全般に係る事務を行う。								
事業内容	●全体計画（毎年の実施でないもの） ○令和7年度 … 高齢者福祉計画・介護保険事業計画・認知症施策推進計画の策定のためのニーズ調査等を実施する。 ○令和8年度 … 高齢者保健福祉事業推進委員会にて協議を行い、各計画を策定する。 ●主な事業内容 ○高齢者福祉計画・介護保険事業計画・認知症施策推進計画策定のための実態調査を行う。 ○介護保険サービスの利用の要となる介護支援専門員を確保するため、その資格更新等に係る研修費用を助成する。 ○特別養護老人ホーム敷地賃借料の一部を補助し、安定した運営を支援する。 ●主な決算の内訳 <table><tr><td>○高齢者保健福祉事業推進委員会委員報酬、費用弁償</td><td>329,100円</td></tr><tr><td>○高齢者保健福祉計画等実態調査委託料</td><td>2,244,000円</td></tr><tr><td>○介護人材育成等支援補助金</td><td>787,200円</td></tr><tr><td>○特別養護老人ホーム犬山白寿苑運営費補助金</td><td>1,475,092円</td></tr></table>	○高齢者保健福祉事業推進委員会委員報酬、費用弁償	329,100円	○高齢者保健福祉計画等実態調査委託料	2,244,000円	○介護人材育成等支援補助金	787,200円	○特別養護老人ホーム犬山白寿苑運営費補助金	1,475,092円
○高齢者保健福祉事業推進委員会委員報酬、費用弁償	329,100円								
○高齢者保健福祉計画等実態調査委託料	2,244,000円								
○介護人材育成等支援補助金	787,200円								
○特別養護老人ホーム犬山白寿苑運営費補助金	1,475,092円								
事業の成果・効果	第10次高齢者福祉計画及び第9次介護保険事業計画に従い、適正に事業の運営を行った。 高齢者福祉事務では、高齢者保健福祉事業推進委員会を3回開催し、「第11次犬山市高齢者福祉計画」「第10次犬山市介護保険事業計画」「認知症施策推進計画」の策定のため、ニーズ調査を行い、一般高齢者、要支援、要介護者の実態を把握した。								

II：個別事業内訳 (単位：千円) (見直し・点検進捗評価は4段階)

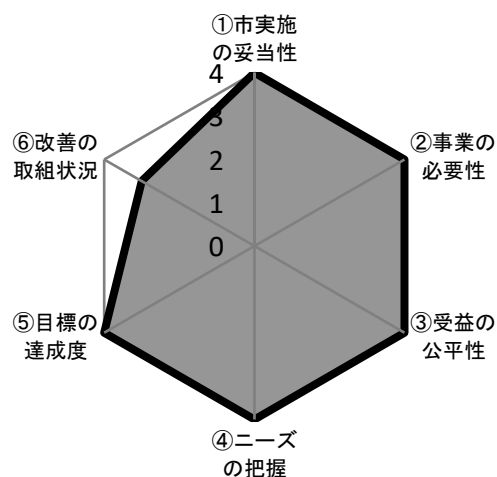
事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務適正化
高齢者福祉事務	3,734	770	2,964	79%	4	3	3
介護施設等運営補助	1,475	0	1,475	100%	4	4	4
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	5,209	770	4,439	85%	4	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況

(単位：千円)

事業費		R6決算	R7決算	R8予算
		10,391	5,209	5,921
財源内訳	国県支出金	8,599	590	1,500
	地方債	0	0	0
	その他	0	180	150
	一般財源	1,792	4,439	4,271
一般財源の割合		17%	85%	72%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	老人福祉法と介護保険法などにより、市の責務とされている。
②事業の必要性	4	各計画策定は、高齢者福祉事業及び介護保険事業の運営基礎となる。
③受益の公平性	4	人口の約3割を占める高齢者を対象としている。
④ニーズの把握	4	次期計画策定に向け、ニーズ把握のためのアンケートを実施した。また、介護サービス相談員を通じてサービス利用者の声を聴くとともに、事業者団体からも随時の意見徴収を行っている。
⑤目標の達成度	4	現計画 (R6～8年度) に基づき事業を進めた。
⑥改善の取組状況	3	次期計画に市民のニーズが反映されるよう、アンケート内容の見直しや設問の数を精査し、実態を把握した。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和7年度に見直しを実施した事項	次期計画策定に向け、ニーズ把握のためのアンケートを実施した。アンケートの調査項目を精査することで、前回調査時から回収率が上がり、より多くの市民の意見を集めることができた。また、認知症施策推進計画の策定に向け、認知症の方やその家族の声を聴き、実情を把握した。
令和8年度に見直しを実施している事項	次期高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定に併せ、新たに認知症施策推進計画を策定するため、課題を整理しながら、今後の犬山市の高齢者福祉施策の方向性を定める。
今後見直しを検討する事項	現在策定中の3つの次期計画に併せ、施策を推進する。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和7年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
高齢者人口がピークとなる2040年代を見据え、地域包括ケアシステムの構築を進める。	事業計画の進捗管理と評価を行いながら、必要な手段を講じる。

令和7年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)	部局名	ふくし部
款	項	目			課 名	高齢者支援課
3	1	3	老人福祉費	208		

I：事業概要

施策事業名	高齢者生きがい支援
事業目的	高齢者の生活を健全で明るい豊かなものにし、高齢者福祉の増進を図る。
事業内容	●全体計画 ○高齢者の自主的な生きがいづくりや健康づくりを支援し、生き生きとした高齢社会の実現を目指す。 ●主な事業内容 ○敬老事業を実施することで、高齢者の長寿を祝うとともに、高齢者の交流の場を創出する。 ○老人クラブの活動を支援し、高齢者の社会活動と自立を促進する。 ○シルバー人材センターの安定した運営を支援し、健康で働く意欲のある高齢者が、その経験や能力を活かす機会を確保する。 ●主な決算の内訳 ○敬老事業 ・数え100歳祝金 620,000円 ・満90歳敬老祝品（犬山茶詰合せ） 508,680円 ・金婚、ダイヤモンド婚祝品（湯呑+お茶） 294,336円 ・75歳、金婚、ダイヤモンド婚祝品（お食事券） 1,149,160円 ・75歳のつどい開催委託料 2,034,615円 ○老人クラブ活動支援 ・指導員派遣委託料 1,775,615円 ・老人クラブ助成金 2,699,880円 ○シルバー人材センター運営費補助金 26,285,000円
事業の成果・効果	高齢者の生きがいづくりを行う団体の支援を行うほか、高齢者が活躍できる場を確保した。また、人生の節目を迎える高齢者をお祝いし、長寿への敬意と感謝の意を表した。

II：個別事業内訳 (単位：千円) (見直し・点検進捗評価は4段階)

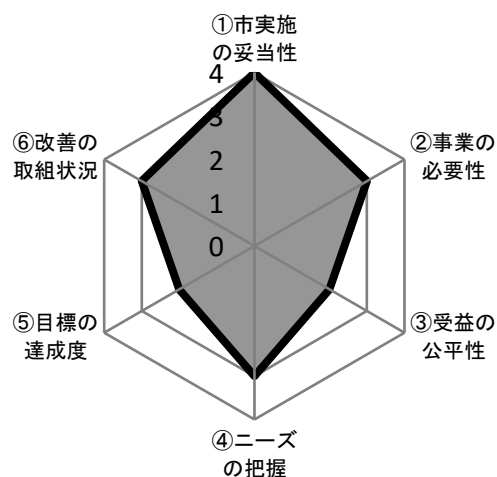
事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務適正化
生きがい支援	4,830	0	4,830	100%	3	3	3
老人クラブ活動支援	5,476	857	4,619	84%	3	4	3
シルバー人材センター運営支援	26,285	0	26,285	100%	4	4	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	36,591	857	35,734	98%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況

(単位：千円)

事業費		R6決算	R7決算	R8予算
		34,429	36,591	36,752
財源内訳	国県支出金	1,010	857	974
	地方債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	33,419	35,734	35,778
一般財源の割合		97%	98%	97%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	老人福祉法や高齢者等の雇用の安定等に関する法律により、市の責務が規定されている。また、敬老事業は採算性がなく、民間単独での実施は難しい。
②事業の必要性	3	高齢者の生きがいがいづくりにつながる事業として継続して行う意義はある。
③受益の公平性	2	支援する団体やその会員、また金婚・ダイヤモンド婚など一定の条件を達した高齢者を対象としている。
④ニーズの把握	3	75歳のつどいにおいて、参加者等にアンケート調査を実施し、次年度以降の実施内容を検討した。
⑤目標の達成度	2	75歳のつどいについて、令和6年度のアンケート結果により、土日開催から平日開催に切替たことにより、参加率は、前年度約21%から約26%へと5%程度増加した。
⑥改善の取組状況	3	令和8年度より75歳、90歳、金婚、ダイヤモンド婚を同日イベント形式で該当者を招待し、実施する。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和7年度に見直しを実施した事項	75歳のつどいを土日開催から、平日開催へとアンケート結果により変更したことにより、出席率が5%程度増加した。
令和8年度に見直しを実施している事項	75歳、90歳、金婚、ダイヤモンド婚を同日イベント形式で該当者を招待し、実施する。
今後見直しを検討する事項	フォーマル・インフォーマルを問わず、地域に多様な高齢者の居場所づくりを推進する。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和7年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
敬老イベントへの参加率の向上、業務効率の改善	今まで別日で開催していた「ダイヤモンド婚・金婚祝講演会」、「75歳のつどい」を「人生の節目を祝う会」として一つにまとめることでイベントへの参加率を上げ、さらに業務の効率化を図る。

令和7年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)	部局名	ふくし部
款	項	目			課 名	高齢者支援課
3	1	3	老人福祉費	208		

I：事業概要

施策事業名	高齢者生活支援
事業目的	在宅での日常生活に不安を持つ高齢者が、できる限りその暮らしを継続することができるよう支援する。
事業内容	●全体計画 ○支援が必要な高齢者とその家族に日常生活の支援を行う。 ●主な事業内容 ○在宅で寝たきり等の高齢者を介護する方への手当の支給 ○高齢者の移動支援のためのタクシー料金助成 ○在宅で重度の要介護者を介護する方への介護用品の支給 ○電話による1人暮らし高齢者の安否確認 ●主な決算の内訳 ○在宅要介護者介護手当 8,880,000円 ○高齢者タクシー料金助成 13,321,770円 ○高齢者介護用品支給 1,355,022円 ○ひとり暮らし老人安否確認 648,973円
事業の 成果・効果	各種高齢者福祉サービスの提供により、住み慣れた環境での日常生活の継続を支援した。

II：個別事業内訳 (単位：千円) (見直し・点検進捗評価は4段階)

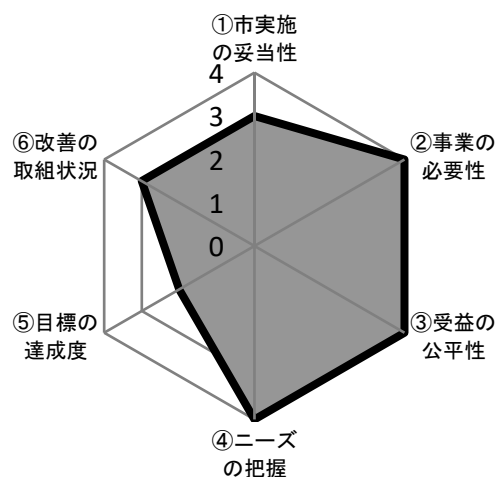
事業名	決算額	財源内訳		一般財源 の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信 ・共有化	業務適正化
高齢者生活支援	26,804	361	26,443	99%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	26,804	361	26,443	99%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況

(単位：千円)

事業費		R6決算	R7決算	R8予算
		23,080	26,804	39,507
財源内訳	国県支出金	0	19	26
	地方債	0	0	0
	その他	797	342	885
	一般財源	22,283	26,443	38,596
一般財源の割合		97%	99%	98%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	3	採算性のない高齢者福祉サービスを実施するもので、国や県のサービスとは重複しない。
②事業の必要性	4	高齢者の日常生活を支援するものであり、必要性は極めて高い。
③受益の公平性	4	市内人口の約3割を占める高齢者を対象とした事業である。
④ニーズの把握	4	次期高齢者福祉計画において、無作為に抽出した高齢者等にアンケートを実施した。
⑤目標の達成度	2	支援が必要な高齢者への福祉サービスであり、目標値を数値化することは困難である。
⑥改善の取組状況	3	高齢者が目にしやすい、市広報を通じて各サービスの周知を行った。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和7年度に見直しを実施した事項	市の交通施策の一つとして、高齢者タクシーについて、基本料金助成に加え、85歳以上で住民税非課税世帯の方に対し、利用料金助成(最大12,000円)を実施した。
令和8年度に見直しを実施している事項	日常生活用具支給事業について、現状の利用率等を勘案し、支給品目の自動消火器をとりやめた。
今後見直しを検討する事項	高齢者福祉サービスの内容を検証し、必要な見直しを行う。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和7年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
ひとり暮らし高齢者や高齢者のみの世帯は増加しているが、サービスの利用は横ばいとなっている。	社会情勢や市民のニーズに応じ、事業のあり方を見極める。

令和7年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)	部局名	ふくし部
款	項	目			課 名	高齢者支援課
3	1	3	老人福祉費	208		

I：事業概要

施策事業名	介護保険特別会計繰出金								
事業目的	介護保険法に基づき、介護保険事業の運営のため、介護保険特別会計で要する費用を負担する。								
事業内容	●全体計画・主な事業内容 ・介護保険事業の運営のため、介護保険特別会計で要する費用を負担する。 ●決算の内訳 <table><tr><td>介護給付費分</td><td>662,045,000円</td></tr><tr><td>地域支援事業費分</td><td>152,149,000円</td></tr><tr><td>事務費分</td><td>45,439,894円</td></tr><tr><td>低所得者保険料軽減負担分</td><td>42,734,600円</td></tr></table>	介護給付費分	662,045,000円	地域支援事業費分	152,149,000円	事務費分	45,439,894円	低所得者保険料軽減負担分	42,734,600円
介護給付費分	662,045,000円								
地域支援事業費分	152,149,000円								
事務費分	45,439,894円								
低所得者保険料軽減負担分	42,734,600円								
事業の成果・効果	一般会計から介護保険特別会計に繰出金を支出し、介護保険事業を運営した。								

I I：個別事業内訳

(単位：千円)

(見直し・点検進捗評価は4段階)

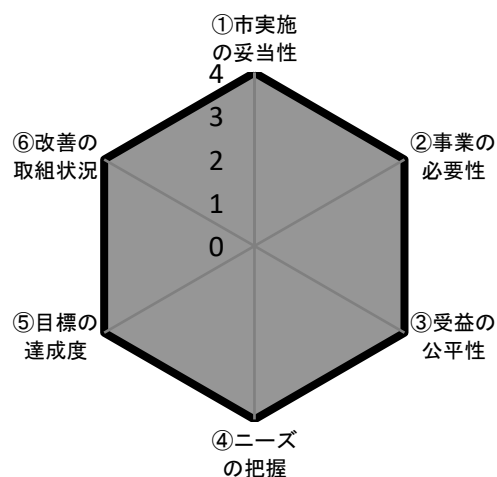
事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務適正化
介護保険特別会計繰出金	902,369	123,141	779,228	86%	4	4	4
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	902,369	123,141	779,228	86%	4	4	4

Ⅲ：年度別事業費の状況

(単位：千円)

事業費		R6決算	R7決算	R8予算
		865,102	902,369	906,882
財源内訳	国県支出金	134,119	123,141	126,448
	地方債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	730,983	779,228	780,434
一般財源の割合		84%	86%	86%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	介護保険法第124条により一般会計の負担が定められている。
②事業の必要性	4	介護保険事業を運営していくうえで必要な財源である。
③受益の公平性	4	40歳以上の市民全員を対象とした制度である。
④ニーズの把握	4	介護サービス相談員を通じてサービス利用者の声を聴くとともに、事業者団体からも随時の意見徴収を行っている。
⑤目標の達成度	4	介護保険事業計画に基づき運営することができた。
⑥改善の取組状況	4	一般会計からの繰り出しを介護保険事業計画のとおり行っており、問題はない。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和7年度に見直しを実施した事項	特になし
令和8年度に見直しを実施している事項	特になし
今後見直しを検討する事項	特になし

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和7年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
介護給付費などの数値は、計画2年目にあたる令和7年度まで計画上の予測に近似している。計画3年目について、予測との乖離が発生しないか注意が必要。	介護保険事業計画に従い、毎年度の繰り出しを行う。

令和 7 年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書 (P)	部局名	ふくし部
款	項	目			課 名	高齢者支援課
3	1	3	老人福祉費	208		

I：事業概要

施策事業名	老人保護措置
事業目的	経済的理由などにより在宅生活が困難な高齢者を養護老人ホーム等に措置し、安定した生活を送れるようにする。
事業内容	●全体計画・主な事業内容 ○経済的理由などにより在宅生活が困難となった高齢者を養護老人ホーム等に措置し、安定した生活を確保する。 また、要介護（要支援）認定を受けていない高齢者が、家族等の都合で一時的に養護できない場合は、短期間の入所サービスを提供する。 ●主な決算の内訳 ○老人保護措置費 30,805,753円 ○短期入所事業費 1,172,563円
事業の 成果・効果	在宅生活が困難な高齢者を保護することができた。

II：個別事業内訳 (単位：千円) (見直し・点検進捗評価は4段階)

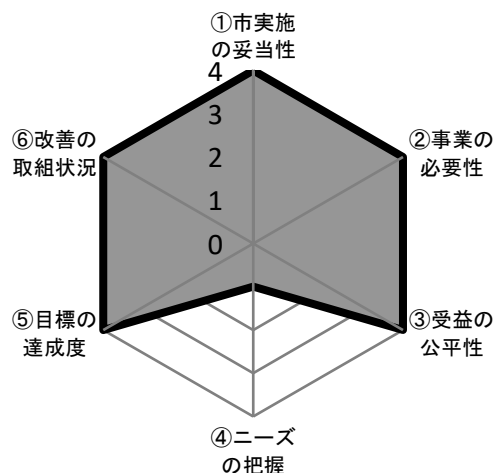
事業名	決算額	財源内訳		一般財源 の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信 ・共有化	業務適正化
老人保護措置	32,079	3,719	28,360	88%	4	4	4
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	32,079	3,719	28,360	88%	4	4	4

Ⅲ：年度別事業費の状況

(単位：千円)

事業費		R6決算	R7決算	R8予算
		39,092	32,079	50,506
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	5,087	3,719	3,877
	一般財源	34,005	28,360	46,629
一般財源の割合		87%	88%	92%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	老人福祉法第11条に基づき市が実施しなければならない事業である。
②事業の必要性	4	身体的、精神的、環境的、または経済的な問題などにより、在宅で生活ができない高齢者を養護しなければならない。
③受益の公平性	4	高齢者の誰もが対象になり得る事業である。なお、措置者からは収入状況等に応じて負担金を徴収している。
④ニーズの把握	1	ニーズにより行う事業ではないが、相談や関係機関との情報共有などにより必要性を把握している。
⑤目標の達成度	4	必要性を見極めて適切な措置を行っている。
⑥改善の取組状況	4	引き続き適切な措置を行う。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和7年度に見直しを実施した事項	なし
令和8年度に見直しを実施している事項	なし
今後見直しを検討する事項	なし

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和7年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
定員に対し入所者が少ないことから、受託法人が今後も安定して運営し、サービス提供できる体制を整えること。	安定した運営・サービス提供については、受託法人と協議を進めて検討していく。

令和7年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)	部局名	ふくし部
款	項	目			課 名	高齢者支援課
3	1	4	老人福祉施設費	212		

I：事業概要

施策事業名	高齢者福祉施設管理
事業目的	高齢者福祉施設を適正に管理・運営し、教養活動やレクリエーション活動の場を提供することで、高齢者の健康増進を図る。
事業内容	●全体計画・主な事業内容 ○高齢者福祉施設を適切に運営及び維持管理することで、安全で快適な環境を確保する。 ●主な決算の内訳 ○施設の管理運営、維持管理の実施 ・施設管理業務委託料 16,345,824円 ・光熱水費 4,078,921円 ・修繕料 2,584,947円 ●その他 ○施設一覧 ・老人福祉センター（羽黒老人福祉センター、南老人福祉センター、楽田老人福祉センター） ・老人憩の家（東部老人憩の家、前原老人憩の家、内田老人憩の家、五郎丸老人憩の家、池野老人憩の家） ・高齢者活動センター（高齢者活動センター、南部高齢者活動センター） ・福祉活動センター
事業の成果・効果	施設全体で延べ35,625人の利用があった。

II：個別事業内訳 (単位：千円) (見直し・点検進捗評価は4段階)

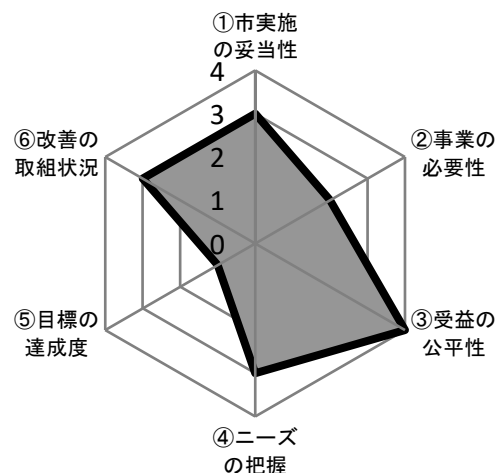
事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務適正化
高齢者福祉施設管理	26,939	1,605	25,334	94%	3	4	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	26,939	1,605	25,334	94%	3	4	3

Ⅲ：年度別事業費の状況

(単位：千円)

事業費		R6決算	R7決算	R8予算
		30,503	26,939	33,815
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	1,641	1,605	1,685
	一般財源	28,862	25,334	32,130
一般財源の割合		95%	94%	95%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	3	市に設置義務はないが、高齢者の健康増進やレクリエーションのために必要な施設である。
②事業の必要性	2	年間、35,625人の利用があるが、その大半が趣味、教養にかかる利用のため、日常生活に不可欠な施設ではない。
③受益の公平性	4	人口の約3割を占める高齢者を対象とする事業である。
④ニーズの把握	3	利用者に施設の設備に関するアンケートを実施することで、利用者のニーズを把握している。
⑤目標の達成度	1	利用にあたって目標値は特に定めていない。
⑥改善の取組状況	3	防犯体制の強化と個人情報を適正に管理するため、点検チェックシートを活用しチェックを行っている。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和7年度に見直しを実施した事項	優先度の高いトイレ改修について、改修の順番を決定した。
令和8年度に見直しを実施している事項	優先度の高い南老人福祉センターのトイレ改修の設計委託を実施する。
今後見直しを検討する事項	修繕・改修等の優先度が高いものから各施設の営繕を進めていく。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和7年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課 題	対応策・今後の方向性
建築後、30年から40年が経過し、老朽化が進む施設が大半となっており、維持管理にコストがかかる。	中長期的な視点をもって計画的な修繕を実施していく。

令和 7 年度 決算説明書 / 事業評価シート

特別会計名	決算書 (P)	部局名	ふくし部
介護保険特別会計	458	課 名	高齢者支援課

I : 事業概要

施策事業名	介護保険事業
事業目的	高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らしていけることを目指し、いつまでも自立した生活を送れるよう支援する。
事業内容	●全体計画 介護保険法に基づき、介護保険事業を運営する。 ●主な事業内容 被保険者の資格管理、介護保険料の賦課徴収、要介護（要支援）認定、介護給付費の支払い、介護保険サービス事業所の指導と支援、高齢者あんしん相談センターの運営などを実施する。 ●決算状況 保険給付費 5,267,585,348円 地域支援事業費 361,601,414円 その他事業費（事務費など） 158,613,335円
事業の 成果・効果	できる限り高齢者が要介護状態になることを予防するとともに、介護が必要となっても、一人ひとりの生活環境や心身の状況に応じ、自分らしく暮らせるよう必要な介護予防・介護サービスの給付を行った。

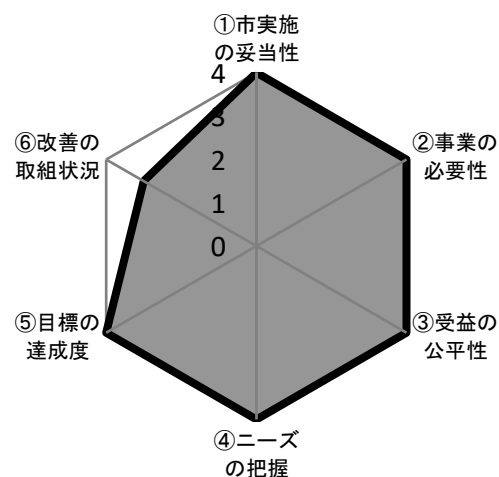
II : 個別事業内訳 (単位：千円) (総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源 の割合	総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	報発信・共有	業務適正化
介護保険給付事業（2款）	5,267,586	3,980,953	1,286,633	24%	4	3	4
地域支援事業（4款）	361,602	303,330	58,272	16%	4	3	4
その他事業	158,612	45,430	113,182	71%	4	3	4
（健康推進課分を含む介護保険特別会計全体）	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	5,787,800	4,329,713	1,458,087	25%	4	3	4

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R6決算	R7決算	R8予算
		5,774,754	5,787,800	5,761,165
財源内訳	国県支出金	1,915,396	1,995,070	2,008,607
	地方債	0	0	0
	その他	2,206,067	2,334,643	2,357,717
	一般財源	1,653,291	1,458,087	1,394,841
一般財源の割合		29%	25%	24%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	介護保険法により、市が保険者とされている。
②事業の必要性	4	介護保険法による事業で、市民の日常生活を支える事業である。
③受益の公平性	4	40歳以上の市民全員を対象とした制度である。
④ニーズの把握	4	次期計画策定に向け、介護に関するニーズ把握のため、アンケートを実施した。また介護サービス相談員を通じてサービス利用者の声を聴くとともに、事業者団体からも随時の意見徴収を行っている。
⑤目標の達成度	4	介護保険事業計画に基づき、適正に運営することができた。
⑥改善の取組状況	3	高齢者向け文書について、記入例のブラッシュアップなど相手に伝わるよう改善を行っており、適宜、見直しを進めている。

Ⅴ：業務の総点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和7年度に見直しを実施した事項	次期計画策定に向け、ニーズ把握のためのアンケートを実施した。アンケートの調査項目を精査することで、前回調査時から回収率が上がり、より多くの市民の意見を集めることができた。また、認知症施策推進計画の策定に向け、認知症の方やその家族の声を聴き、実情を把握した。
令和8年度に見直しを実施している事項	次期高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定に併せ、新たに認知症施策推進計画を策定するため、課題を整理しながら、今後の犬山市の高齢者福祉施策の方向性を定める。
今後見直しを検討する事項	引き続き、高齢者あんしん相談センター（地域包括支援センター）を強化し、地域包括ケアシステムの深化を進める。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和7年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
高齢者人口がピークとなる2040年代を見据え、地域包括ケアシステムの構築を進める。	事業計画の進捗管理と評価を行いながら、必要な手段を講じる。